

令和 6 年度予算参考資料

令和 6 年 5 月
文化庁文化経済・国際課

文化芸術の創造的循環の創出

令和6年度予算額
(前年度予算額)

1,342百万円
1,425百万円)



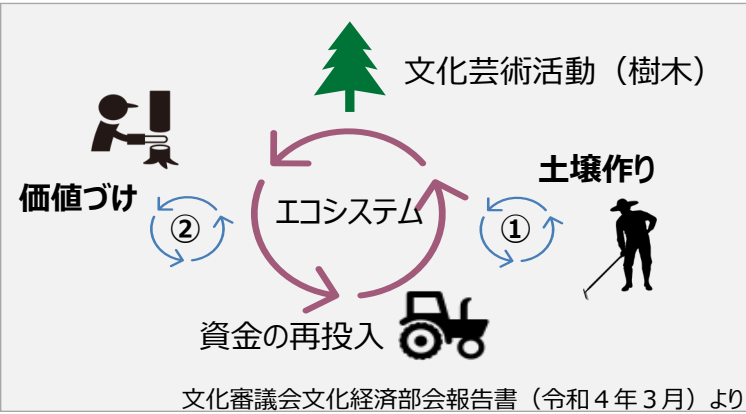
背景・課題

令和4年3月の文化審議会文化経済部会報告において、文化芸術の二つの創造的循環の連動こそが文化と経済の好循環を実現し、継続的に資金が流れ込むことで、持続的・発展的に文化芸術活動が定着・深化していくことが指摘された。また、第2期文化芸術基本計画（令和5年3月）においても、文化芸術の本質的価値の創造・深化を図るとともに、その本質的価値を生かして社会的・経済的価値を創出し、そこで得られた収益を本質的価値の向上のために再投資するという循環を生み出していくことが重要であるとされた。

事業内容

国内の文化芸術の基盤強化（芸術家等の活動基盤強化、文化芸術団体の自律的・持続的な運営促進、デジタル基盤強化・活用促進等）及び文化芸術のグローバル展開の推進（未来のトップアーティスト等の国際的活動支援、活字文化のグローバル発信、世界から人を惹きつけるグローバル拠点形成等）により文化芸術の創造的循環を創出する。

①第1の創造的循環	文化芸術活動（「樹木」）を生み出す「土壌」を豊かにする循環
・創造的人材の持続的な育成 ・ファンドレイジングと税制措置 ・文化芸術DXの推進 等	
②第2の創造的循環	文化芸術活動（「樹木」）の価値を伸ばし、見える化し、広めていく循環
・マーケティング、ブランディング、プロモーション ・グローバル市場への積極的な関与 等	



文化芸術の創造的循環
～①「土壌」を豊かにする循環、②価値を高める循環
による循環的生態系（エコシステム）イメージ～

土
壌
作
り

価
値
づ
け

【令和6年度 文化芸術の創造的循環の創出	1,342百万円（1,425百万円）】
1. 文化芸術の持続的な発展のための基盤強化	305百万円（292百万円）
① 芸術家等の活動基盤強化	70百万円（81百万円） 適正な契約関係構築の促進等、文化芸術関係者の活動環境の改善に向けた取組
② 文化芸術団体の自律的・持続的運営促進事業	154百万円（166百万円） 文化芸術団体の自律的・持続的な発展、幅広い価値の向上を目指した支援
③ 文化芸術のデジタル基盤強化・活用促進事業	20百万円（新規） 最新のデジタル技術に係る調査分析・知見の発信、革新的事例の創出
④ アートエコシステム基盤形成促進事業	62百万円（46百万円） 来歴管理の適正化や美術品の価格評価の客観性担保に向けたデジタル基盤の整備等
2. 文化芸術のグローバル展開の推進	1,037百万円（1,132百万円）
① 未来のトップアーティスト等の国際的活動支援事業	128百万円（201百万円） 才能ある若手アーティスト等のグローバルな活動を総合的に支援
② 新進芸術家の海外研修	202百万円（187百万円） 新進芸術家等を対象に海外で実践的な研修に従事するための支援
③ 活字文化のグローバル発信・普及事業	103百万円（65百万円） 基盤となる翻訳家の育成、海外展開を行う仲介者の支援等
④ 我が国アートのグローバル展開推進事業	137百万円（152百万円） 国際的なアートフェアへの出展支援等
⑤ 世界から人を惹きつけるグローバル拠点形成の推進	466百万円（527百万円） 国際的なアートフェアの誘致、音楽とアートの融合、新たな価値の創出・発信等

担当：文化経済・国際課

芸術家等の活動基盤強化

令和6年度予算額
(前年度予算額
令和5年度補正予算額

70百万円
81百万円
69百万円



現状・課題

文化芸術の担い手は小規模な団体やフリーランス等で活動する者が多く、立場の弱さや不安定さに起因して不利益が生じたり、活動継続が困難になったりするなどの課題が存在。

我が国の文化芸術の持続的な振興を図るためには、その担い手である芸術家等が持続可能な形で活動を継続できるよう、活動環境を改善し、芸術家等の活動基盤を強化することが必要。

○経済財政運営と改革の基本方針2023

文化芸術と経済の好循環による活動基盤強化と持続的発展を加速し、心豊かで多様性と活力のある文化芸術立国を実現する。(中略) 世界のコンテンツ産業の成長を睨み、広い意味でのクリエイターの支援を進めていく。

事業内容

有識者会議での議論を経て令和4年7月に公表した「文化芸術分野の適正な契約関係構築に向けたガイドライン（検討のまとめ）」を踏まえた適正な契約関係構築に向け、必要な取組を実施。

事業実施期間 令和3年～令和7年（予定）

● 芸術家等の持続可能な活動や安定的な運営に資するモデル事業の実施 ＜令和3年度～＞ 24百万円（28百万円）

安心・安全な環境で芸術活動が行えるよう、令和5年度は「文化芸術活動に関する法律相談窓口」を開設し、契約や活動に関係して生じる疑問やトラブルについて弁護士が無料で相談対応等を実施。

件数・単価 1件×約2400万円 交付先 民間団体

● ハラスメント防止対策への支援＜令和5年度～＞ 16百万円（16百万円）

作品や公演単位で実施するハラスメント防止対策に必要な経費を支援。

件数・単価 75箇所×上限20万円 交付先 文化芸術活動を行う団体

アウトプット（活動目標）

事業実施件数

	5年度(見込)	6年度
委託事業数	4件	3件
補助事業数	75箇所	75箇所

短期アウトカム（成果目標）

相談窓口利用者の満足度 **80%以上**
実務研修会受講者の理解度 **90%以上**
ハラスメント防止対策が講じられた活動場所において、安心して活動に取り組めた割合 **80%以上**

長期アウトカム（成果目標）

芸術家等を対象としたアンケート調査で、「事業環境改善を実感する」の割合

令和3年度 20% → **令和7年度 50%**

担当：文化経済・国際課

● 依頼者や発注者との関係（令和3年度文化庁調査）

依頼時に報酬等の明示なし	74%
不利な条件での仕事の受託	67%
支払い遅延・未払い・減額	54%
業務内容の一方的な変更	51%



令和4年度芸術家等実務研修会の様子



令和4年度芸術家等実務研修会 教材一覧

● 芸術家等実務研修会等の実施＜令和4年度～＞ 30百万円（37百万円）

芸術家等及びその発注者の立場になる者が、適正な契約関係構築等のために必要な知識を身に付けられるよう、研修用教材を開発し、研修会等を実施。

件数・単価 2件×約1500万円 交付先 民間団体

文化芸術団体の自律的・持続的運営促進事業

令和6年度予算額
(前年度予算額154百万円
166百万円)

現状・課題

「文化芸術推進基本計画（第2期）」（令和5年3月24日閣議決定）では、「文化芸術団体等が抱える運営上の課題に対処し充実した活動を推進できるよう、国のアート・カウンシル機能の強化による伴走型支援の実施など文化芸術団体等の自律的・持続的な発展に資する取組を推進する」と記載されている。文化芸術団体が自律的・持続的に本質的価値（文化芸術そのものの価値）を高める活動を行うことができるよう、その社会的・経済的価値の向上を目指した支援を実施する恒常的な機能が必要である。

事業内容

本事業は、文化芸術団体が自律的に課題を解決し、持続的に発展していくことを目指し、企業再生や地域再生などで広がりつつある伴走型支援（専門家等が文化芸術団体等との対話を通して、課題抽出や団体等の価値の明確化を行い、協働して課題の解決と価値の最大化に向けて取り組んでいく支援）を通して、効果的な運営支援機能の在り方を実証的に明らかにし、その基本となる手法と体制を設計・確立することを目的に実施。その結果をもとに、令和10年度をめどに、運営支援機能のモデル形成を目指す。

事業実施期間 令和5年度～令和9年度（予定）

● 運営支援機能の全体設計

11百万円（11百万円）

運営支援機能構築に向けた、基本的な支援手法・体制の設計、評価指標の構築、支援人材の育成・蓄積及び実証事業全体の調整や好事例の普及の実施。

件数・単価

1件×約11百万円

交付先

民間団体

● 伴走型支援の実証

140百万円（152百万円）

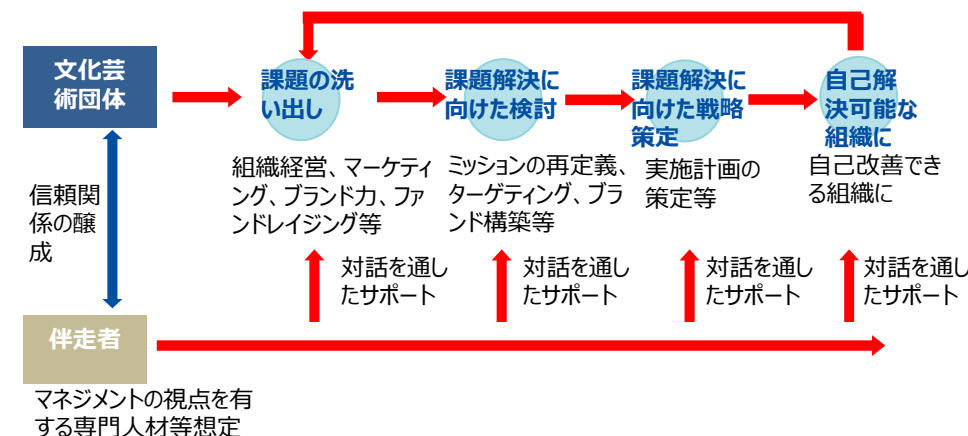
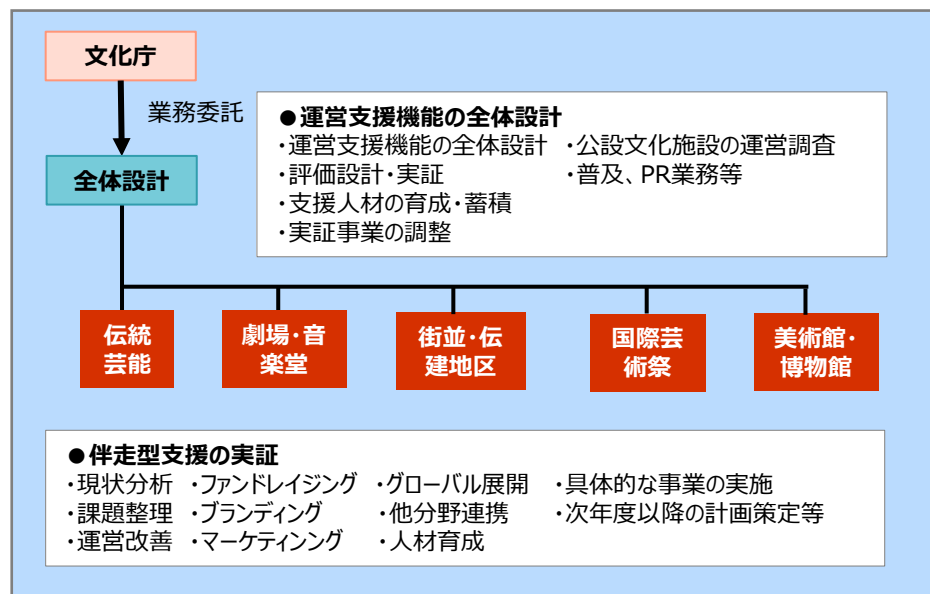
伝統芸能、劇場・音楽堂、街並・伝統的建造物群、国際芸術祭、美術館・博物館等、幅広い文化芸術分野ごとに実証を実施。

件数・単価

5件程度×約28百万円

交付先

民間団体



アウトプット（活動目標）

令和6年度
・伴走型支援の実証に係る事業実施件数：5件

短期アウトカム（成果目標）

分野ごとに適切な評価指標を設定。達成に向けた道筋を明確化する。

令和5年度 評価の実証件数 4件（予定）
→令和6年度 評価指標の設定（達成度100%）

長期アウトカム（成果目標）

自己収入及び寄附金収入の増加
事業規模の拡大／外部資金獲得額の増加

令和10年度をめどに、運営支援機能のモデル形成を目指す

背景・課題

文化芸術推進基本計画（第2期）では、文化芸術の本質的価値を活用して社会的・経済的価値を創出し、そこで得られた収益を本質的価値の向上のために再投資するという循環を生み出すことが重要とされている。

近年急速に進展するデジタル分野の技術革新は、文化芸術をとりまく様々な領域において、その社会的・経済的価値をこれまでになく向上させる可能性を有するものであり、「文化芸術と経済の好循環」を創出・加速する鍵となるものである。しかし現状では、その利活用はデジタル技術と親和性の高い分野や、最新技術に関心の高い一部の文化芸術関係者のみに留まっている。

このため、文化芸術分野におけるデジタル基盤を強化するとともに、多くの文化芸術関係者のデジタル技術の積極的な利活用を促進することにより、文化芸術活動の社会的・経済的価値を向上させ、活動の持続可能性を高めていくことが必要である。

事業内容

デジタル技術の利活用に関する実験的取組によりモデル事例を創出し、デジタル基盤の強化と利活用の促進を図る。

事業実施に当たっては、「文化芸術団体の自律的・持続的運営促進事業」との有機的な連携を図り、事業実施効果を向上させる。

事業実施期間 令和6年度～令和9年度（予定）

● デジタル技術を活用したモデル事例の創出（委託） 20百万円（新規）

文化芸術活動の社会的・経済的価値の向上や、活動の持続可能性を強化するうえで、課題解決に繋がる実験的取組を支援し、以後の横展開に資するモデル事例の創出を目指す。

件数・単価

約20百万円

交付先

民間団体

- **文化芸術推進基本計画（第2期）** 令和5年3月24日閣議決定
重点取組7 デジタル技術を活用した文化芸術活動の推進
(略)…デジタル技術を活用した文化芸術の振興を図るとともに、その有効性や課題を明らかにする。
- **経済財政運営と改革の基本方針2023** 令和5年6月16日閣議決定
（文化芸術・スポーツの振興）
(略)…文化DXの活用等（デジタル技術を活用した文化芸術活動等の振興を含む。）を推進する。

【事業展開の流れとその効果】

文化芸術のデジタル基盤強化・活用促進事業

- ・ デジタル技術を活用したモデル事例の創出



連携

文化芸術団体等の経営戦略や伴走支援の具体策と連動して取り組むことにより、相乗効果を高めるとともに、成果の定着・展開促進を図る。

文化芸術団体の自律的・持続的運営促進事業

- ・ 文化芸術団体等の自律的運営や持続的発展を伴走支援

デジタル基盤の強化／利活用の促進

社会的・経済的価値の向上／持続性強化

アウトプット（活動目標）

令和6年度
実験的取組の実施件数：1件

中期アウトカム（成果目標）

令和8年度
実験的取組によりモデル事例が
1件以上創出されている

長期アウトカム（成果目標）

令和9年度以降
モデル事例が複数の文化芸術分野へ
横展開され、その価値を高めている

アートエコシステム基盤形成促進事業

令和6年度予算額
(前年度予算額)62百万円
46百万円

背景・課題

文化審議会文化経済部会等において、国内の美術品市場基盤の脆弱性が指摘されている。特に市場基盤の脆弱性の中で大きな課題であると指摘されている取引履歴の確保を含む来歴管理や美術品の価格評価の客観性の担保等については、デジタル基盤の整備等により改善を進める必要がある。本事業では、デジタル基盤の整備等により流動性の向上を図り、美術品の資産化・市場拡大を促し、もってアート全体のエコシステムの形成・発展の一端を担うことを目指す。

事業内容

個々の美術品の取引履歴をデジタル的に補足する仕組みやその基礎となる管理適正化（標準化）、価格評価根拠となる過去の取引データ等に関するアクセシビリティ確保等を進める。

事業実施期間 令和5年度～令和9年度（予定）

①美術品の管理適正化のための調査・実証事業

- 市場に流通する美術品等の取引履歴の確保等に向けてデジタル的に捕捉する取組を進めるとともに、美術館・博物館における美術品・文化財の管理適正化（標準化）を図る。

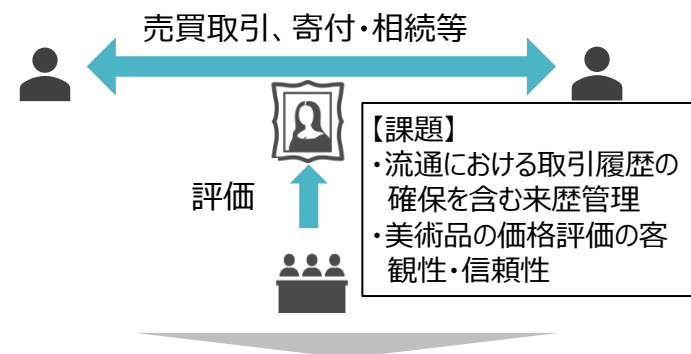
件数・単価	1件×約20百万円	交付先	委託先事業者
-------	-----------	-----	--------

②公的な鑑定評価制度整備に向けたデータ基盤構築

- 美術品の価格評価の信頼性向上に向け、基盤・制度WG公的な鑑定評価制度に関する作業部会においてとりまとめられた「美術品（近現代分野）の鑑定評価における価格評価の手法、手順等についてのガイドライン試行版」（令和5年3月）では、過去の取引事例に基づいた客観的な価格評価を求めている。本事業では当該制度整備に向け、価格評価の根拠となる過去の取引データ等に関するアクセシビリティを確保するための基盤整備・構築を行う。

件数・単価	1件×約42百万円	交付先	委託先事業者
-------	-----------	-----	--------

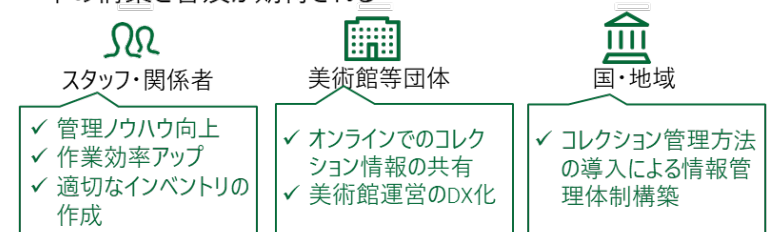
【美術品価格評価の現状】



美術品の資産化・市場拡大

(参考) 英国の美術品・文化財管理標準化フォーマット Spectrum

- 美術館等関連団体がコレクションを管理するうえでのアドバイスを21の手順(9 primary procedures + 12 procedures)にまとめたもの
- 同基準により、作品管理の方法の標準化、管理方法ノウハウの伝達、作品管理のDX化、管理作業の簡略化の実現、さらに国際基準の構築と普及が期待される



アウトプット(活動目標)

- 国内の美術館・博物館向け管理適正化（標準化）計画の策定 1本
- 価格評価データ基盤の構築 1件

アウトカム(成果目標)

中期（令和7年度）：日本のアート市場の拡大
(世界7位)

アウトカム(成果目標)

長期（令和14年頃）：
我が国のアート全体のエコシステムの発展

我が国アートのグローバル展開推進事業

令和6年度予算額
(前年度予算額)137百万円
152百万円)

現状・課題

現代アートは、欧米の美術界における評価がその価値を決める基準となっているため、日本のアートの国際的プレゼンスを向上させるには、日本のアーティストの作品が欧米の価値基準の中での評価を受けることが不可欠である。しかし、日本のアートは、国際的な価値づけの中心となる重要な海外アートフェアや著名美術館、有力ギャラリーに対する戦略的・効果的な発信ができておらず、その潜在力に比して十分な評価を得ることができていない。これは日本のアート市場の規模が小さいことの要因にもなっている。

事業内容

日本のアートの認知度や関心度を高め、国際的な評価を向上させることができるよう、国内外のアートフェアにおける戦略的・効果的な発信を支援する。

事業実施期間 令和5年度～令和9年度（予定）

● 海外アートフェア等参加・出展等支援（補助金） 57百万円（57百万円）

国際的に重要なアートフェアへの出展を促進。若手アーティストの作品の海外出展をも促す

件数・単価	12件×4.75百万円	交付先	民間団体
-------	-------------	-----	------

● 国際的に発信力のある国内企画展等支援（補助金） 19百万円（19百万円）

国際的に発信力のあるアーティストの評価を高める展覧会の開催を促進

件数・単価	2件×9.5百万円	交付先	国内美術館等
-------	-----------	-----	--------

● 国際拠点化事業の推進支援（補助金） 50百万円（50百万円）

我が国が国際的なアートの発信拠点へと成長していくことに資する事業を支援

件数・単価	2件×25百万円	交付先	民間団体
-------	----------	-----	------

● 国際連携による海外企画展等支援（補助金） 10百万円（25百万円）

海外の美術館等における日本のアーティスト等に関する企画展の開催を促進

件数・単価	1件×10百万円	交付先	国内美術館等
-------	----------	-----	--------

アウトプット（活動目標）

支援事業の実施件数

令和4年度	令和5年度	令和6年度
19件	16件	17件

短期アウトカム（成果目標）

日本が文化芸術の発信拠点となるため、まずは日本のアートの国際発信を進める。

アート市場の活性化

日本のアート市場の拡大→令和9年度 世界7位

長期アウトカム（成果目標）

日本のアートの国際的な評価向上

ARTFACTS ランキング100→令和14年度 5人



アートSG（シンガポール）出展者の様子（令和4年度）

順位	アーティスト名
14位	草間彌生
55位	オノ・ヨーコ
71位	河原温
88位	杉本博司

ArtFacts Artist Ranking100における日本出身アーティストの順位
(2023.7.10現在)

https://artfacts.net/lists/global_top_100_artists

世界から人を惹きつけるグローバル拠点形成の推進

令和6年度予算額
(前年度予算額)466百万円
527百万円)

現状・課題

欧米中心の世界の美術界において、日本がプレゼンスを向上させるとともに、国際アート市場におけるシェアを拡大するためには、個々の作品が国際的に評価を高めるだけでなく、訴求力の高い国際的なアート拠点を国内に形成することが必要である。また、海外で評価されたものが逆輸入的に日本で評価される現状に対して、日本発の「新たな価値」を創出し世界に発信していくことも、日本のプレゼンスを向上させるうえで重要である。

事業内容

日本の国際的なプレゼンスの向上や国際アート市場におけるシェア拡大を目指し、国際的なアート拠点の形成に向けた取組や、日本発の「新たな価値」を発信するための取組を実施する。

事業実施期間 令和5年度～令和9年度（予定）

● 国際的なアートフェアの誘致に向けた我が国アートシーンの発信 300百万円（300百万円）

国際的なアートフェアの本格的誘致に向け、省庁横断的な活動を実施。

件数・単価	1件 合計300百万円	交付先	民間団体
-------	-------------	-----	------

● 国際的なイベントにおけるアートの国際発信 130百万円（190百万円）

現代アートと他分野の融合による新たな世界観の創出、アートの国際拠点づくりによる国際的なアートの文脈の創出、日本人アーティストによる効果的な国際発信、アートのすそ野の拡大等を目指す。

件数・単価	3件 合計130百万円	交付先	民間団体
-------	-------------	-----	------

● 日本文化のグローバル展開に資する「新たな価値」の発信 30百万円（30百万円）

西洋美術史とは異なる文脈から「新たな価値」を形成し、世界に向けて発信していくための国際的なアートフェスティバルの開催等の取組を持続的に行っていくための準備事業を実施。

件数・単価	1件×30百万円	交付先	民間団体
-------	----------	-----	------

アウトプット（活動目標）

国際的なアートフェアの国内実施件数

令和4年度	令和5年度	令和6年度
0件	1件	1件

短期アウトカム（成果目標）

日本が文化芸術の発信拠点となるため、まずは日本のアートの国際発信を進める。

日本を拠点としたアートイベントが海外メディアに取り上げられた件数 → **令和6年度 10件**

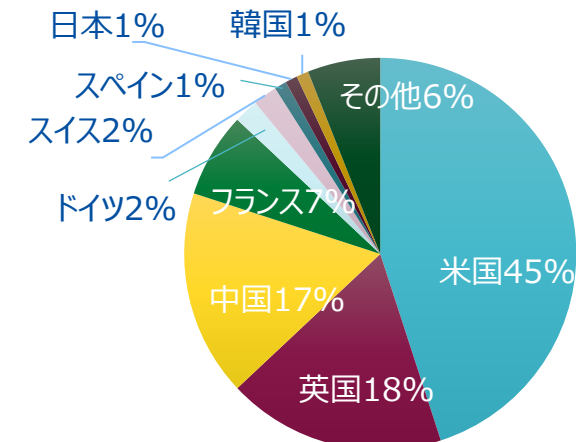
アート市場の活性化

日本のアート市場の拡大 → **令和9年度 世界7位**

長期アウトカム（成果目標）

日本のアートの国際的な評価向上

ARTFACT ランキング100 → **令和14年度 5人**



2022年における国際的なアート市場に占める国別割合
The Art Market Report 2023 (Art Basel & UBS)
artnet THE ART NEWSPAPER

ART EMPEROR



台湾



米国



英国

アートウィーク東京が海外メディアに取り上げられた事例（令和4年度）

未来のトップアーティスト等の国際的活動支援事業

令和6年度予算額
(前年度予算額)

128百万円
201百万円)



現状・課題

- 分野ごとの特性はあるものの、世界的に訴求力のあるポップカルチャー領域も含め、将来的に国際舞台での活躍が期待される才能ある若手のアーティスト等を発掘し、国際的な評価を高めるための支援及び環境が整っていない。
- アーティストだけでなく、コンテンツ等の文化芸術資源のプロデュース、発信及び流通のコーディネートができ、かつ多言語でそれらを行える人材が不足している。
- 国際的な評価形成が海外の専門家・文化施設間のネットワーク内で形成される場合が多いものの、キュレーター等の専門人材はこういったネットワークへのアクセスやネットワークづくりの機会が限られている。

事業内容 アーティスト等活動支援

1. ポピュラー音楽アーティスト

- ・国際舞台での活躍が期待される傑出したアーティストの海外での活動を強力に後押しするとともに、グローバルな文化や評価システムを十分に理解した上で、アーティストをその文脈の中で価値付けて、評価向上のために必要な策を練り実践していくことのできる専門家を核とする戦略的アートプロデュースを組み合わせ、海外展開を推進する。

■ ターゲット地域

- ①北米地域（ロサンゼルスを中心）
- ②ASEAN地域（バンコクを中心）

■ 評価形成のためのプログラム

- ・トップアーティストとのコラボレーション（共同演奏・共同制作・楽曲提供）
- ・著名プロデューサーによる楽曲制作
- ・メディアやSNSを通じた情報発信、音楽専門誌への掲載
- ・単独公演や影響力の強い有名音楽フェスでの演奏



ビッグ・マウンテン・ミュージックフェス
タイで開催される東南アジア最大級の音楽フェスティバルでの公演。
100組以上の海外アーティストが参加。
総観客数10万人超。

2. 美術批評家

- ・有望な美術批評家によるグローバルな現代美術の中心地域での評価形成及びネットワーク構築を後押しし、日本のアーティストをグローバルに価値付けていくための基盤を形成する。

■ ターゲット地域

- ①北米地域（ニューヨークを中心にネットワークを形成）
- ②欧州地域（パリを中心にネットワークを形成）

■ 評価形成のためのプログラム

- ・影響力の大きいアーティスト、キュレーター、ギャラリスト、批評家へのプレゼンテーション
- ・ワークショップへの参加
- ・美術研究機関との共同プロジェクトの実施



Art Criticism as Creation/Practice
海外批評家とのネットワークを形成

2025年大阪・関西万博に向けて、文化資源を磨き上げて観光コンテンツの拡充を行うとともに、戦略的・一体的なプロモーションを推進し、観光インバウンドの需要伸長及び地方誘客・消費拡大を促進

○ 大阪・関西万博の本番に向けて、最高峰の文化資源を更に磨き上げるとともに、戦略的なプロモーションを推進し、年間を通じてインバウンド需要に的確に応えることにより、訪日機運の醸成と万博から現地への誘客を図る。

<外国人向け鑑賞プログラム・日本文化体験プログラム>



Discover伝統芸能
シリーズ
DiscoverBUNRAKU



能楽体験
上) 所作体験
下) 装束体験



8Kで文化財
ふれるまわせる名茶碗 (東
京国立博物館)



「転庵」と「大井戸茶碗 有楽
井戸」(東京国立博物館)



<アニメ・マンガ等の分野の拡充・多様化>



©庵野秀明展 東京会場の様子 / 提供 庵野秀明展実行委員会



これも学習マンガだ！展
トキワ荘通り昭和レトロ館

<プロモーション展開>



トラベルマーケットへの出展等



『日本博2.0』WEBサイト

○文化庁、国立博物館等が所蔵する地域ゆかりの文化財を各地方で展示



○ 地方公共団体が主体となり、文化芸術資源を活用した新しい時代のインバウンド需要に資する文化芸術事業を支援。

国際的な芸術祭の通年プログラム：大地の芸術祭



マ・ヤンソン / MADアーキテクト「Tunnel of Light」(大地の芸術祭作品)
Photo by Nakamura Osamu

新進芸術家の海外研修

令和6年度予算額
(前年度予算額)202百万円
187百万円

現状・課題

多様で優れた文化芸術を継承し、発展させ、創造していくためには、その担い手として高い能力を有する優秀な人材の確保をする必要があり、海外の指導者及び大学、芸術団体等の充実した環境の下で技術等を習得することが重要である。また、コロナ禍の影響が収まってきたことによる新規応募者の増加等を踏まえ、将来性のある若手芸術家等を積極的に海外に送り出していく必要がある。そのため、新進芸術家等に対して、海外で実践的な研修に従事するための支援を充実する。

事業内容

音楽・演劇・舞踊などの舞台芸術、美術、メディア芸術等の文化芸術各分野の若手芸術家等に、海外で実践的な研修に従事する機会を提供するものであり、旅費相当額を支援する。

● 新進芸術家等の海外研修支援

将来的に国際舞台での活躍が期待される傑出した人材を発掘・育成するため、各分野で選定された新進芸術家海外研修制度研修員が海外で実践的な研修を実施。

【研修期間】

- 1年(350日～200日、高校生研修含む)
- 2年(700日)
- 3年(1,050日)
- 特別(20～80日)の4種類

【支援内容】

- 往復航空運賃・支度料・滞在費(日当・宿泊料)

過去の研修員の活躍例



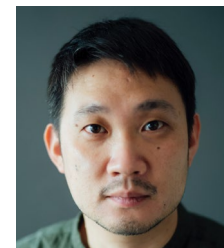
塩田 千春(現代美術家) H16・ドイツ
世界的な評価を得るヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館に出品の《掌の鍵》が、各国から来場の鑑賞者、批評家、メディアから高く評価。



吉田 裕史(指揮) H11・ドイツ等
これまでに世界各地の各歌劇場で指揮し、現在はモデナ・パヴァロッティ歌劇場フィルハーモニー音楽監督、ウクライナ国立オデッサ歌劇場首席客演指揮者を務める世界的指揮者。



山中 千尋(ジャズピアノ) H13・米国
米メジャー・レーベルのデッカ・レコードと契約し全米デビュー。ニューヨークを拠点に世界各地で公演を重ね活躍。日本においてもアルバム全てJAZZチャートで1位を獲得するなど評価。



濱口 竜介(映画監督) H27・米国
日本人としては黒澤明監督に次いで、アメリカのアカデミー賞と世界三大映画祭すべてで受賞を果たし、映画監督としての国際的な地位を確立。

アウトプット(活動目標)

有識者参画による審査(書面及び面接)を経て新進芸術家海外研修制度研修員を採用。

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
69人	35人	27人	35人

短期アウトカム(成果目標)

新進芸術家海外研修制度による海外研修の実施。

令和2年度	令和3年度	令和4年度
69回	35回	26回

長期アウトカム(成果目標)

国内外で活躍する著名な元研修員が文化芸術立国としての国際プレゼンス向上や国際的な評価向上に貢献することで、日本の誇りとして「文化・芸術」を挙げる国民の割合が増加。

アジア域内における文化交流推進事業

令和6年度予算額
(前年度予算額)

188百万円
87百万円

文化庁

現状・課題

東アジアやASEAN諸国との間で文化人、芸術家の交流事業を実施し、相互理解の促進とアジアからの文化発信を目指すとともに、日本が強みを有する分野での文化協力事業を実施する。

また、2012年の第4回日中韓文化大臣会合で合意された「東アジア文化都市」(日中韓3か国で選定した都市において文化芸術活動を集中的に実施)により、東アジア地域における文化交流・人的交流を一層発展させ、将来に向かって同地域の連帯感と文化的な共生と創造に資する。

事業内容

① **アジア芸術家・文化人等交流・協力の実施** 68百万円(44百万円)

東アジア諸国との文化交流事業や人的交流を通じ、東アジアとの文化協力や人材育成を促進させる事業を実施。特に若い世代による未来志向の交流事業のほか、ASEAN+3文化大臣会合において合意されたワークプランに基づきASEANとの交流事業も強化。

(事業例) 日中韓芸術祭 日中韓文化芸術教育フォーラム ASEAN文化交流・協力事業 (アニメーション・メディアアート・映画分野)

件数・単価	5箇所×約1,350万円	交付先	企業、教育機関等
-------	--------------	-----	----------

② **東アジア文化都市中韓交流の実施** 67百万円(41百万円)

3か国同事業と位置づけた交流事業において、中韓への我が国の文化芸術団体等の派遣及び中韓の文化芸術団体等の我が国への招へいを実施。さらに青少年の文化交流を推進。加えて、2024年は東アジア文化都市開始10周年にあたる節目であり、東アジア文化都市間のネットワーク構築のため、東アジア文化都市サミットを開催。

件数・単価	1箇所×約6,700万円	交付先	東アジア文化都市の実行員会等
-------	--------------	-----	----------------

③ **日中韓文化大臣会合の開催** 51百万円(新規)

毎年日中韓3か国が持ち回りでホスト国を務める文化大臣会合について、2024年は日本がホスト国となり、第15回日中韓文化大臣会合を主催。

(その他、東アジア文化都市関係行事・会議への旅費等)



	日本	中国	韓国		日本	中国	韓国
2014年	横浜市	泉州市	光州広域市	2019年	豊島区	西安市	仁川広域市
2015年	新潟市	青島市	清州市	2020年	北九州市	揚州市	順천시
2016年	奈良市	寧波市	済州特別自治道	2021年	北九州市	紹興市・敦煌市	順천시
2017年	京都市	長沙市	大邱広域市	2022年	大分県	温州市・済南市	慶州市
2018年	金沢市	ハルビン市	釜山広域市	2023年	静岡県	成都市・梅州市	全州市

アウトプット (活動目標)

東アジア文化都市中韓交流事業の委託件数

令和4年度	令和5年度	令和6年度
2件	2件	1件

長期アウトカム (成果目標)

委託事業内におけるプログラム実施件数

令和3年度 9件 → **令和6年度目標 13件**

現状・課題

近年、首脳間・大臣間の合意等に基づく国際文化交流が増加している中、文化政策上の意義や国際貢献の観点からの意義に基づき、国が責任を持って交流事業を実施する必要がある。このため、本事業では、これらの政府間の取決め等に基づいて開催される文化芸術発信事業や国際文化交流事業を実施する。

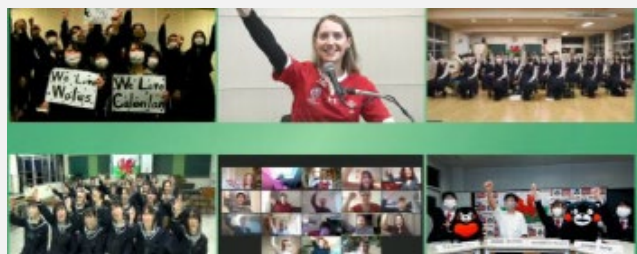
事業内容

首脳間・大臣間等で設定される周年事業等で行われる文化・芸術関連行事など、国としての対応が必要となるトップレベルの文化芸術発信事業や国際文化交流事業を実施する。

日英交流年「UK in JAPAN」における日・ウェールズ文化交流強化事業

期間：令和3年1月～令和3年3月

概要：ラグビー・ワールドカップ2019においてウェールズ代表チームとスポーツ交流を行った大分県、熊本県、及び北九州市における合唱団と、ウェールズの青少年合唱団（Only Boys Aloud）とがオンライン上で交流を行い、日本の合唱団によるウェールズ語の合唱曲の発表会を実施。



中央アジア諸国・日本外交樹立30周年記念関連事業

期間：令和4年4月（ウズベキスタン）、5月（キルギス）、6月（カザフスタン）

概要：中央アジア3か国(ウズベキスタン・キルギス・カザフスタン)との文化交流事業を行い、各国の歴史・地理・文化等の紹介や、各国の在日音楽家と日本の音楽家のコラボレーションによる演奏を提供。



ウズベキスタン



キルギス

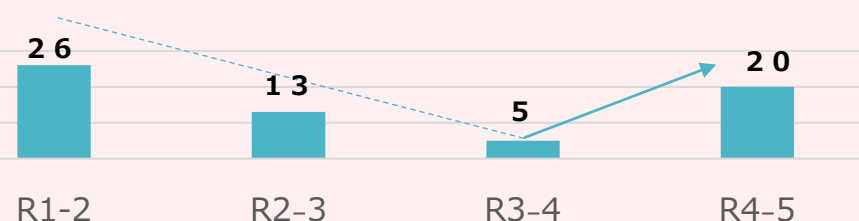
アウトプット（活動目標）

R6年度目標実施件数6件

R1	R2	R3	R4	R5	R6
9件	4件	6件	4件	4件 (見込)	6件

短期アウトカム（成果目標）

本事業における過去2年間の
本事業における参加相手国数
(重複除く) 目標：20か国



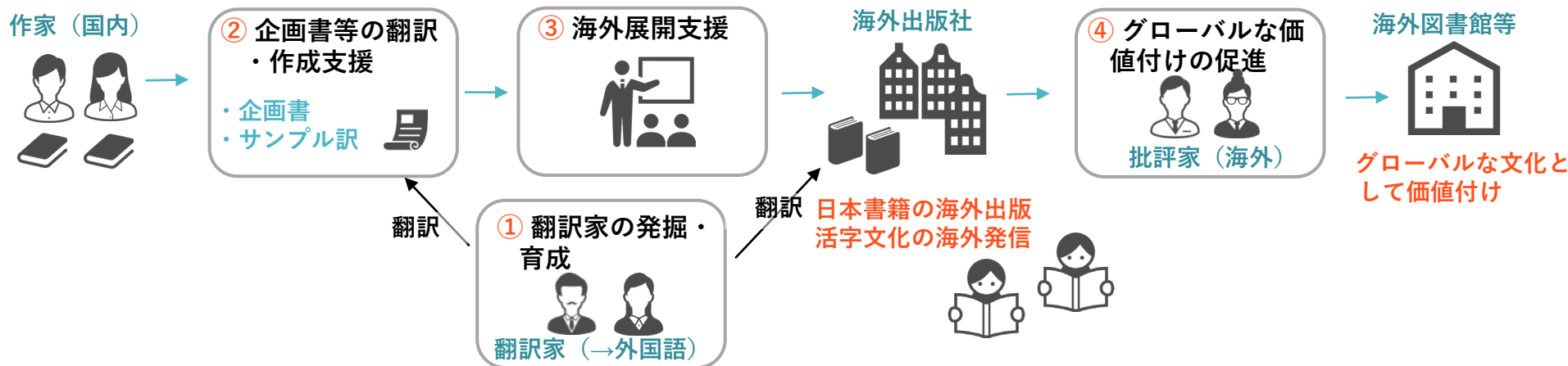
現状・課題

- ・日本の文学作品やマンガ等は、他コンテンツの根幹となるIPの創出やストーリーの源泉であり、海外に展開されるべき潜在的なコンテンツ等の文化芸術資源として蓄積されている一方で、海外における文学的・芸術的評価の価値軸に十分に位置付けられていない。
- ・海外展開の基盤となる翻訳家が足りていない。
- ・活字コンテンツの海外展開にあたり、言語が壁となり「概要の説明」や「実際に中身を読んでもらう」という最初のステップが課題となっている。
- ・海外における文化的・芸術的評価の価値軸を十分に踏まえた仲介者による海外展開の体制が十分に整っていない。
- ・グローバルな評価に関わる批評家とのネットワークが薄い。

事業内容

- ① 翻訳家の発掘・育成：海外展開の基盤となる翻訳家を発掘・育成するためのコンクール、ワークショップ等を実施。古典領域へ対象を拡大。
- ② 企画書等の翻訳・作成支援：海外展開の必須の基礎資料である外国語の企画書・サンプル訳の作成支援。
- ③ 海外展開支援【新規】：マンガ作品を含め、作家ごとの海外展開や包摂性のあるテーマに基づいた海外展開を行う仲介者を支援。
- ④ グローバルな価値付けの促進【新規】：関係者協議会による批評家等とのネットワークの構築、海外の図書館に向けた推薦作品リスト等の作成。

イメージ図



第2回 翻訳コンクール最優秀賞受賞者（2015年）



サム・ベット（翻訳家）

受賞後に翻訳家として活動を開始。川上未映子『夏物語』（2019年）、『ヘヴン』（2021年）、『すべて真夜中の恋人たち』（2022）他多数（共訳）。『ヘヴン』は2022年のブッカー国際賞にノミネートされ最終選考に進んだ。

フランクフルト・ブックフェアでのプロモーション



世界最大の国際ブックフェアであるフランクフルト・ブックフェアにおいて、世界中の出版関係者に向けて日本の活字コンテンツのプロモーションを実施

海外展開を目指す出版社向けセミナー



外国語の企画書等の作成支援に加えて、海外展開を目指す出版社を対象に、具体的なアプローチの方法等を含めた実践的セミナーを実施。